

人生を拓く

24

高橋良夫さん(86) 8区町内会

香川県三豊郡から東旭川(旭川)に入植した父親の安吉さん(平成10年、97歳で没)は、祖父茂芳さん(明治元年生まれ、没年不明)、祖母ラクさん(同12年生まれ、同)の長男として、1905(同38)年に両親とともに開拓入植しました。

ごく初期の入植だったようです。香川県が発行した入植許可番号によると、祖父茂芳さんは第39号、祖母ラクさんは40号、父安吉さん(当時4歳)は41号でした。その入植許可証兼汽車賃、汽船割引券は今も大切に残っています。

2年後、一家は東川(西10号北34番地)に開拓移住しました。父安吉さんは、同じ町内の母ナガエさん(30歳で早逝)を迎え結婚。良夫さんは3人兄弟の長男として東川で生まれ育ちました。

母ナガエさんが若くして他界したため、安吉さんはその後再婚。高橋家はのちに7人兄妹の大家族に。良夫さんは長兄として尋常小学校を卒業後、家業の農業を手伝い、冬は冬山造材で木材の切り出し作業に精を出しました。

「学校卒業して、すぐに田んぼ仕事に出たよ。5町歩(5畝)あったけれど、当時は雑木林のやぶだった。機械を入れても木の根っこに引っかかるし、機械はすぐ壊れるし、すぐに埋まるし…。道路も砂利道だったね。靴がないから裸足で歩いてた」。

20歳ごろから友達と一緒に連れ

立って東神楽町の義経神社祭りに遊びに行くように。

「橋を渡るには銭が必要だった。

でも銭がないから自転車かついで川を渡ったんだよ」。

5年後、東神楽村八千代のチエ子さんと結婚(当時22歳)、姉妹2人の子宝にも恵まれました。「弟が分家する時に家を建ててやったんだ。沼田炭鉱の炭鉱住宅を取り壊すというので材料をもらってきてさ」と大工仕事でもなんでもこなす器用さと体丈夫が身上でもありました。

30歳で消防団にも入り20年間務めました。「おかげで車の免許もすぐに取れたんだ。団に入りたてのころ、天人峡温泉で大きな火事があった出勤したことを思い出すよ。あのころはよく火事があったなあ」。

農業は18年前に辞め、今はしらかば学級、友達と温泉旅行、パークゴルフなどで「結構忙しいんだよ」と日々を楽しんでいます。



俳句

彼岸寺笑わせて始まる説教よ

陽に向かい伸びゆく命菜花かな

一面の菜の花畑風渡る

余生とは神が知るのみ春の雪

エイエイオー天をも突き抜けてつくしんぼ

せせらぎの音に目覚める路の臺

一斉に春は挙って駆けてくる

木の根開くのぞけばそこは小宇宙

卒業子ひとりとなりて寡黙なり

まわり道菜の花畑見せたくて

形見とは言わずの小袖春の月

春めくや草にも名ありて切絵展

川遊び菜の花片を追う子達

春浅し未束予想図修正す

笑う子の顔じゅう菜の花畑です

花冷えや胸にひやりとマンモグラフィー

杉山 ひろのり

保科 なほ

徳光 吐苦

杉山 りつ

こばやし 星来

横田 則子

若田 久

高瀬 潤

石澤 清宏

三島 智

若田 郁

本田 咲

佐々木 りえ

山内 みゆ

小林 ろば

高橋 公花

